

令和2(2020)年度 学校関係者評価報告書

報告日：令和3（2021）年3月23日

学校法人 桑沢学園

専門 桑沢デザイン研究所
学校

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-4-17

専門学校桑沢デザイン研究所 学校関係者評価報告書について

専門学校桑沢デザイン研究所学校関係者評価は、デザイン関連業界等関係者、卒業生、教育に関し知見を有する者、学識経験者・地域支援者を委員として選任し、本校が実施した自己評価結果に関する評価をおこなって頂くこととした。現状における課題について助言を得る貴重な機会としても位置づけ、必要な改善、学校運営や教育実践力等の向上に役立てることとする。根底に本校が従来から伝統的に取り組んできたものについてその価値を見極めて頂き、今後も継続できるよう客観的に評価して頂いた。

1. 実施日時

令和3年2月～3月

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により郵送による意見交換とし、2月から3月にかけておこない、提出されたものを事務担当において取り纏めた。

2. 実施場所

専門学校桑沢デザイン研究所 事務室

3. 実施組織

学校関係者評価委員会

○評価委員：

小島 和昭 委員長：埼玉県高等学校美術工芸教育研究会 会長

磯村 歩 株式会社フクフクプラス代表取締役

佐藤 裕介 LINE 株式会社

杉本 一二 神南宇田川町会 会長

野村 太郎 株式会社スタイルメント代表取締役

(50音別 敬称略)

4. 学校自己評価報告書について

(a)評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(b)評価項目：

次の10項目について実施

項目1 教育理念・目的・人材像

項目2 学校運営

項目3 教育活動

項目4 学修成果

項目5 学生支援

項目6 教育環境

項目7 学生の募集と受け入れ

項目8 財務

項目9 法令等の遵守

項目10 社会貢献・地域貢献

(c) 評価項目に対する評価

4段階評価で点数評価した。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

5. 学校関係者評価報告書の作成について

上記の学校自己評価報告書を基に、評価委員毎に各項目について確認の上意見をご提出頂いた。ご提出頂いた意見、提案事項について項目ごとに以下の様にまとめた。

項目1 教育理念・目的・育成人材像

教育理念・目的・人材育成像	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
2. 育成人材像は専門分野に関する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	③	2	1
3. 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	④	3	2	1
4. 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1

本校の教育理念は創立以来66年間一貫しており、人材育成、教育課程の内容とも一致している。教職員及び学生も、理念・目標について理解できている。デザインの役割とそれを取り巻く環境の変化を踏まえながら、教育理念に基づいたデザイン教育を実践し、時代をリードするデザイナーを育成するための検討を更に推し進めていくことが重要である。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・デザインを学ぶ学生にバックボーンとなる基礎的な造形力を実習で学ぶことと教養を得ることが、以後の活動への基盤となっている。良き伝統として引き継いで欲しい。

項目2 学校運営

学校運営	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
1. 理念等に沿った運営方針を定めているか	④	3	2	1
2. 理念等を達成するための事業計画を定めているか	④	3	2	1
3. 設置法人の組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
4. 学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
5. 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	③	2	1
6. 意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
7. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

本校は「桑沢学園中期ビジョン 2020」及び「桑沢学園中期実行計画 2020」に基づき適切に運営されている。組織・管理運営は、所長及び副所長が運営協議会を統括し、教学部門は教務主事により教員会議、各種

委員会を、事務部門は事務局長が中心となり、部課長会議で情報を共有し適切に行われている。月に一度開催する定例の教員会議は、毎回全教員が出席して、運営に対する意識の高い意見が交わされている。

平成31年4月より施行された働き方改革への対応のため、関係規程を整備したが、教職員の労働については、労務管轄部署を中心に、適正な管理を図っている。学校運営の充実を図るため、「教職員相互の理解」「目標・方針の共有や一致」を目指して、教職協働を進めていく。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・PDCA サイクル。文科省の流れもあり、検討を進める必要がある。

項目3 教育活動

教育活動	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
1. 理想に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
2. 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
3. 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	④	3	2	1
4. 教育課程について外部の意見を反映しているか	4	③	2	1
5. キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
6. 授業評価を実施しているか	4	③	2	1
7. 成績評価・修了認定基準を明確化し適切に運用しているか	4	③	2	1
8. 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	④	3	2	1
9. 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけているか	4	3	②	1
10. 資格・免許の指導体制はあるか	4	3	②	1
11. 資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
12. 教育資質向上への取り組みを行っているか	4	③	2	1
13. 教員の組織体制を整備しているか	④	3	2	1

社会のニーズを踏まえたクオリティの高い教育を展開していくためには、教員は校外での研修や、学生及び卒業生の意見を収集する仕組みも重要である。

学生による授業評価について、更に充実を図る必要がある。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・学校の自由さが少しずつ失われつつある様に思う。「こうあるべきだ」という概念で、社会のデザインのニーズに向かうべき。

項目4 学修成果

学修成果	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
1. 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
2. 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	3	②	1
3. 卒業生の社会的な評価を把握しているか	④	3	2	1

就職活動を支援するためには、卒業生や企業と連携して、学生に就職への意識を高められる環境を提供できるよう、教職協働の取り組みとして組織的に進めていく。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・コロナ禍で就職状況が変化し、更なるきめ細やかな就職指導が求められその結果が注視されている。
- ・OB/OG への情報を取りまとめたシステム等があれば、OB/OG 訪問をより実施できると思う。

項目5 学生支援

学生支援	適切:4、ほぼ適切:3、やや 不適切:2、不適切:1			
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
2. 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
3. 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
4. 留学生に対する相談体制を整備しているか	4	③	2	1
5. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
6. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
7. 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
8. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
9. 保護者と連携体制を構築しているか	4	③	2	1
10. 卒業生への支援体制を整備しているか	④	3	2	1
11. 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	3	②	1
12. 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	④	3	2	1

経済的に厳しい世帯の学生が安心して学べるよう、令和2(2020)年4月から始まった高等教育の修学支援制度の修学支援の対象機関として、令和3(2021)年度に認定を受けた。

学生の学修支援には、保護者との情報共有と連携が重要だと認識しているので、学校行事や諸手続きの情報や、修学の成果である成績について、提供していく体制を検討している。

退学率低減のため、進路選択時のミスマッチはないか、退学理由を基にそれを少しでも排除することはできないかなど、情報を収集して、教職協働の取り組みとして組織的に進めていく。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・コロナ禍における学生支援について、学生相談、学生生活への対応について心配している。不安と戸惑う学生について十分な支援が図られるよう。
- ・文科省、修学支援新制度対象校としての認定は評価できる。
- ・夜間における多様なバックグラウンドを持つ学生の入学が増えているのを実感する。基礎デザイン専攻の開設は、社会人教育のニーズに合致し、今後の拡がりを期待する。
- ・ポートフォリオサービス「foriio」や「vivivit」など、作品を発信していく重要性を取り上げて欲しい。

項目6 教育環境

教育環境	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
1. 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	③	2	1
2. 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	③	2	1
3. 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
4. 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

学生が自主制作を行う作業スペースや、昼食や休憩をとる共有スペースが不足している。授業時間割上の科目開講曜日・時限の調整により、授業で使用しない教室を確保できないか検討していく。

日曜・祝日に校舎の利用はできるが、図書室や常設の危険を伴う一部の機材・機器は利用できない。また、現校舎の運用開始から16年が経過したので、計画的な修繕を開始している。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

- ・シブヤフロントへの協力を、社会貢献では無く、若しくはそれに加えて学外実習の一つとしても定義されては、と思う。
- ・IT領域におけるデザイナーの重要性が高まっている。ぜひ誘致を進めて欲しい。
- ・もっと授業にインターンシップを導入すべきだと思う。社会はインターンシップからスタートしている。

項目7 学生の募集と受け入れ

学生募集受け入れ	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
1. 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	④	3	2	1
2. 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	④	3	2	1
3. 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
4. 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
5. 経費内容に対応し学納金を算定しているか	4	③	2	1
6. 入学辞退者に対し授業料等について適切な取り扱いを行っているか	④	3	2	1

学生の受け入れ募集活動は、おおむね適正に行われている。夜間部開講の専攻デザイン科では、学び直しを望んでいる社会人が求めている専門教育の充実と修学環境の整備、そして「何ができるようになるのか」を明確に発信することが重要であり、そのためには、効率的な募集戦略を視野に入れ、ターゲットを設定した広報活動を展開していくことが課題である。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・桑沢独自の奨学金の存在が学生に周知出来ていないと思う。ポジティブな周知を図って欲しい。

項目8 財務

財務	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
1. 学校及び法人運営の中期的な財務基盤は安定しているか	4	③	2	1
2. 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
3. 教育目標との整合性を図り単年度予算、中期計画を策定しているか	④	3	2	1
4. 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	④	3	2	1
5. 私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
6. 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し適切に運用しているか	④	3	2	1

本学園では、継続的な経営・運営を行うための基本指針として、「桑沢学園中期ビジョン 2020」及び「桑沢学園中期実行計画 2020」を策定し、本校における具体的な実施項目として、教育課程の再編計画を検討している。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・特にご意見はありませんでした。

項目9 法令等の遵守

法令等の遵守	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
1. 法令や専修学校設置基準を遵守し適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
2. 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
3. 自己評価に実施体制を整備し評価を行っているか	④	3	2	1
4. 自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1
5. 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	②	1
6. 学校関係者評価結果を公表しているか	④	3	2	1
7. 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

法令等の遵守関連省庁への届出をはじめ、適正な運営に努めている。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・もちろん学校評価は大切である。社会に対しデザインとはどうあるべきなのか。「ダメ」な事など何もない。

項目10 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1			
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
2. 国際交流に取り組んでいるか	④	3	2	1
3. 学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援を行っているか	4	3	②	1

本校では、デザイン教育の独自性及び特徴を明確にし、その機能を最大限に発揮するために、社会連携・貢献の強化および国際交流の推進を「学校法人桑沢学園 中期ビジョン 2020」の重点項目として掲げている。平成29(2017)年には、社会に向けた教育事業の発信及び振興促進を目的として、「クワサワ・クリエイティブ・ハブ協議会」を発足し、イベントやコンペティションの立案、国際交流事業の取り組み、学生ボランティアに関する事項等について審議している。同協議会の活動として行っている「全日本高校生デザイングランプリ」は、高等学校との接続教育の一環として行われ、デザイン教育の普及に貢献している。また、渋谷区内の障害者支援施設との協働事業として取り組んだ「シブヤフォント」のプロジェクトに本校学生が参加するなど、学生が社会連携事業に積極的に関わる機会を提供している。

同協議会の活動は、学生の社会性が醸成されるとともに、地域社会の課題解決や発展に寄与しており、今後も教育と地域貢献に資する取り組みを中心とした社会連携のための支援体制の整備と、新たなプロジェクトの実現に向けた検討を進めていく。また、国際交流においては、バウハウス・デッサウ財団との連携を継続し、バウハウスの理念・思想に基づく事業を展開していく。

学校関係者評価委員会コメント・質疑

・「シブヤフォント」においては、桑沢における取組の整理を求める。学校の教育資源や施設が、クリエイティブハブ協議会を通して、何を提供され、どの様に活用されているのか。現状は企業による学生向けコンペの案内、告知が学内で実施されているものと変わらず、社会貢献を定義され得るものなのか、と感じている。「シブヤフォント」は、社会貢献に留まらず、社会実装をリアルな事業として進めているものであり、そこへの学生の関わりは、学外実習として大いなる成果があるものと思う。桑沢の限られたリソースで、学外実習、社会貢献、ボランティア活動のそれぞれに対して施策を展開するのは現実的ではない。「シブヤフォント」を一つの取組でありながら、多様な領域への成果が出せるものとして整理し、取組頂きたいと思う。

6. 学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告内容は、学校関係者評価委員として、
妥当な評価であることを確認し、認めます。

令和3年 3月23日

専門学校桑沢デザイン研究所学校関係者評価委員会

【学校関係者評価委員会】

委員長(教育に関し知見を有する者)

小島 和昭〔埼玉県高等学校美術工芸教育研究会 会長〕

委員(デザイン関連業界等関係者)

磯村 歩〔株式会社フクフクプラス代表取締役〕

委員(卒業生)

佐藤 裕介〔LINE 株式会社〕

委員(学識経験者・地域支援者)

杉本 一二〔神南宇田川町会 会長〕

委員(デザイン関連業界等関係者)

野村 太郎〔株式会社スタイルメント代表取締役〕